

平成 30 年度 図書館事業報告

I 全域サービス

市内全域でだれもが利用しやすい図書館をめざします

1-1 ネットワークを活かした全域サービス

- ・分館の係員の案内により、分館への予約本取り寄せ数が増加している。
- ・それぞれの分館が持つ特色や地域の特徴を記載した利用案内作成に取り組んでいる。
- ・「週刊いいだ 5 月 10 日号」において分館特集を組んでいただき、広報・PR を行った。

1-2 図書館利用者を増やすサービス（重点）

- ・広報いいだ 6 月 1 日号図書館特集掲載、テレビ広報の放映により、図書館に関心を持っていただいた。
※この号は平成 30 年長野県市町村広報コンクール広報紙(市)の部で優秀賞を受賞し、全国コンクールに推薦される。
- ・つどいの広場での読み聞かせ、「天竜峡夏期大学」等の講座へ出向いて図書館利用案内や図書貸出を行った（14 回 新規登録者 24 人）。

1-3 図書館を利用しにくい人たちへのサービス

1-3-1・2 来館できない高齢者・障がい者サービス

- ・高齢者サービスについて県内図書館の情報や事例を収集した。
- ・録音図書利用パンフレットを改訂し、1 月から福祉課にて障害者手帳交付の際に配布してもらうようにした。
- ・録音図書の新規利用登録者は 5 名。貸出・利用者延べ人数は増加している。
(H30. 12 末で 1,448 タイトル、973 人)
- ・サピエ(※1)を利用し増加傾向にあるリクエストに対応している。
(H30. 12 末時点 125 タイトルダウンロード)
- ・マルチメディアデイジー(※2)を利用し始めた小学校や個人利用者もあり、新たに 10 点購入した。
※1 サピエ：視覚障害者及び視覚による表現の認識に障害のある方々に対して点字、デジタル録音図書などを提供するネットワーク
※2 マルチメディアデイジー：音声と文字や画像が同期して出力される電子図書。視覚障害者・学習障害者など自分で読むことが難しい人にわかりやすいとされている。

1-3-3 多文化サービス

- ・外国語図書の収集については、リクエストをもとに購入した。
- ・学校への団体貸し出しでは、中国語の小学校中学年・高学年向きの図書がよく利用された。
- ・「国際交流の夕べ」に出展し、多言語の図書や図書館の利用を PR した。

II 資料提供

暮らしと仕事と地域に役立ち、課題を解決できる図書館をめざします

2-1 資料の収集

2-1-1 図書及び資料の充実

- ・出版におけるここ数年の傾向として、売上の総額は減少しているものの、出版点数は増加しており、分野の多様化及び細分化が進んでいる。毎週行う選書会議において、類書の有無や利用状況、また3館の所蔵状況を踏まえた蔵書構成となるように協議し、選書を行った。
- ・人文分野では、今日的な作品以外にも、基本図書となるような古典的なものも購入した。
- ・社会分野では、法律の改正や経済情勢を踏まえ、必要に応じた選書を行った。福祉関係は特に需要が多い。教育関係は今日的な課題やテーマを見落とさないように意識している。
- ・自然科学の分野は、新たな知見を得たものやデータが更新されたものに留意して選書を行っている。医学関係は、様々な種類の病気の症状や治療法について、具体的・専門的に記載されている図書が求められている。
- ・工業・商業・農業などの分野は、仕事と生活に資する実用書を中心に選書した他、AIや自動運転技術など、近い将来の課題であるものを購入した。
- ・人口減少などの地域課題の解決や、まちづくりを考える参考となるような図書は意識的に選書している。
- ・定期購読の雑誌は分野や需要を吟味したうえで選定を行っている。速報性のある資料として重要であるが、雑誌全体の販売不振の影響が大きく、休刊が増加している。
- ・児童書は、できるかぎり現物を見たうえでの選書を行っている。
- ・利用の増えている大活字本を、出版状況を把握しながら利用が多いと思われるものを購入している。

2-1-2 郷土資料の収集（重点）

- ・地方紙や地元書店など各方面から情報収集し、地元発行図書を漏れなく収集することを目指している。また、郷土ゆかりの人物に関する資料について、積極的に収集している。
- ・各種パンフレットや新聞記事等は随時必要なものをチェックし、ファイル資料として整理受入れした。
- ・郷土資料を寄贈してくださる方が増えている。

2-1-3.4 資料の整理と保存、保存スペースの確保

- ・限りある書庫スペースの有効活用のために、書庫の図書・雑誌について、中央図書館と上郷図書館が分担して保存するよう具体的な基準や手順を決めた。
- ・南信州新聞のデジタル化はH26年分を行った。地元新聞の閲覧システムの利用は増加傾向にある。カセットテープのデジタル化も昨年度に引き続き行った。

2-2 資料提供・情報提供の充実

1 月末までの利用状況

() は H29 年度

		中央	県	上郷	3 館計	前年度比
新規登録者数	大人	757 (767)	71 (59)	126 (160)	954 (986)	96.8%
	子ども	358 (312)	131 (135)	128 (162)	617 (609)	101.3%
	団体	10 (9)	7 (7)	8 (20)	25 (36)	69.4%
	計	1,125 (1,088)	209 (201)	262 (342)	1,596 (1,631)	97.9%
貸出利用者数	大人	64,918 (60,417)	16,214 (14,486)	22,349 (21,610)	103,481 (96,513)	107.2%
	子ども	13,253 (12,814)	6,242 (5,875)	7,898 (7,378)	27,393 (26,067)	105%
	団体	1,277 (1,206)	614 (531)	1,640 (1,467)	3,531 (3,204)	110.2%
	計	79,448 (74,437)	23,070 (20,892)	31,887 (30,455)	134,405 (125,784)	106.9%
貸出冊数	大人	234,022 (225,222)	57,462 (52,821)	74,316 (74,952)	365,800 (352,995)	103.6%
	子ども	65,879 (65,288)	29,345 (27,028)	36,114 (33,576)	131,338 (125,892)	104.3%
	団体	10,404 (8,145)	6,306 (5,750)	15,932 (14,908)	32,638 (28,803)	113.3%
	計	310,305 (298,655)	93,113 (85,599)	126,362 (123,436)	529,780 (507,690)	104.4%
予約数		22,324 (20,059)	10,020 (9,276)	11,220 (10,267)	43,564 (39,602)	110%

H29 年度開館日数 3 館計 690 日 H30 年度開館日数 3 館計 722 日 前年比 104.6%

- ・平成 29 年度はコンピュータシステム更新のための臨時休館があったため、今年度利用者数・貸出冊数とも増加している。のべ利用者数は休館日数以上に増加している。新規登録者数は、大人は減少し、子どもは増加している。
- ・全体として高齢者の利用増の傾向は続いているが、高校生が減少している。
- ・中央館は小学生が減少、20 代、30 代、60 歳以上が増加
- ・県図書館は乳幼児、中学生、40 代、50 代の利用者数が増加

- ・上郷図書館は乳幼児、小学生、30代の利用が増加、中学生、20代、40代、70代の利用者数が減少
- ・予約数は増加を続けている。
- ・学校への利用案内を続けてきたことで、授業で使用する図書や先生方の参考資料、学級文庫などの団体貸出が増加している。
- ・貸出図書や論文複写取り寄せへの要望は多様化・専門化してきており、県外の図書館や大学図書館から借り受けたり、複写を取り寄せたりすることも多い。
また、遠隔地から当館資料への複写依頼も増加している。
- ・利用者が自分で探しやすい書棚を目指して、本の内容に合わせた配置の見直し、見出しの増設などを行った。
- ・館内テーマ本展示は、来館者が本との新たな出会いができるように、また好奇心が刺激されるような表示および展示を行っている。
具体例 【郷土】 県歌制定50周年・県歌「信濃の国」を知っていますか／風越山開山1300年（中央） 【一般】 新書80歳／ベストセラーで振り返る平成（中央） こんなに暑くてどうする!?この夏！（鼎） 鳥で人生変わりました（上郷） 【ヤング】 顔が好き♡装丁特集（中央） 古典萌え（上郷） 【児童】 かこさとしさん追悼特集（各館） モノづくりをたんけん！（鼎） どんなお仕事あるかな（上郷）
- ・「図書館特別資料展 山と暮らす木と暮らす」と題し、昔の山仕事や山の生活の営みを貴重資料や絵・地図とともに紹介した。「樽木」や「木地師」などあまり知られていないが地域にとって重要なものの存在を知ってもらうことができた（協力：市林務課）。

2-3 課題解決支援・情報提供機能の充実（重点）

2-3-1 情報発信

- ・生涯学習・スポーツ課が作成した「ふるさと学習推進のための地域資源紹介リスト 地域として地域の子供たちに伝えたいこと」を基に、地域を学ぶときに使用してもらえよう、関連図書リストを作成、ホームページで徐々にアップしている。
1月末現在市内14地区44テーマを公開

2-3-2 レファレンスの周知、活用促進

- ・一つひとつのレファレンス（調査相談）を丁寧に行い、事例を職員間で共有している。
- ・図書館コンピュータシステムのレファレンスデータベースを提供し始め、郷土に関する事例を掲載 1月末現在22件

2-3-3 地域の課題解決に対する支援

2-3-4 ビジネス支援事業

- ・暮らしと仕事に役立つ図書館として、社会・経済・産業分野を中心に資料充実を図った。

- ・産業経済部を中心とする関係部署と連携し、行事や会議等で図書館利用案内や図書リストの配布による資料紹介を行った。
- ・昨年まで実施していた建設業界団体と共催の職人体験講座に代わり、飯伊森林組合及び根羽村森林組合と共催し、林業に関係する展示及び本箱づくり体験を実施した。
- ・農業生産者グループと図書資料と生産物をつなぐブックカバー配布は、これまで2年間継続実施し、一定程度の情報発信が行えたものとして今年度で終了する。

Ⅲ よむとす 読書活動推進

年代に応じた読書活動を推進します

3-1 次世代育成のためのよむとす（重点）

- ・今年度は、幼稚園や学校と連携した児童サービスの方向性を探るため、保育園園長会や小中学校司書会などで学校での取り組みや先生方の状況、要望などのアンケートや聞き取りを行った。試験的に1中学校区において図書館職員と分館係員、小中学校の図書館担当者の懇談を持ち、現状報告と連携した取り組みの方向性について意見交換をおこなった。

3-1-1 乳幼児（0～3歳）

- ・継続して「はじめまして絵本事業」を行うことで、市内全家庭への読書推進をはかった。実際に絵本を手にとって親子で見てもらえるように各会場にリストの本を整備した。今後は、その場で親子で本を見る時間につながるような声掛けを行っていく。

3-1-2 幼児・小学生（3～12歳）

- ・定例のおはなし会等の行事を中心に、年間を通しておはなしを楽しむ機会を提供した。上郷図書館では、絵本から児童書へのスムーズな移行と子どもの豊かな想像力を育てることをねらいに、新しく語り（ストーリーテリング）のおはなし会を始めた。
- ・小中学校司書と公共図書館司書が合同で、授業への教材提供についての研修会を行い、連携した調べ学習への支援について研修を行った。

3-1-3 中学・高校生（13歳～）

- ・図書館内に職場体験生の作成した本のPOPを展示したり、10代向け掲示板や図書の紹介コーナーを設置するなど本の情報掲示に力を入れた。
- ・高校の保育の授業等での読みきかせ等の講座の講師の依頼が増えている。高校生に話をする機会に、図書館の利用案内や読書推進の話も行った。（飯田女子高7回、風越高校2回、下伊那農業高1回、飯田OIDE長姫高1回）
- ・飯田高校の地域学習へ資料検索の支援を行った。今後、学校と連携して中高生の図書館での資料検索の支援を行いたい。

3-1-4 子どもに関わる仕事や活動をする人たちへの支援

- ・読みきかせボランティアの連絡会での研修会を行った。また、毎月定例で行っている上郷図書館の児童書の講座「子どもの本の会」に読みきかせスキルアップ講座を盛り込み、研修の機会とした。

3-2 大人の利用者へのよむとす

3-2-1 学びの機会提供

- ・図書館・公民館・婦人文庫で実行委員会を作り、飯田下伊那地域の読書会調査及び飯田下伊那読書会交流会を実施した。調査では新たな読書会の存在を把握することができ、交流会では多くの参加者と読書会の意義を確認することができた。
- ・例年行っている市民との協働による講座の開催は、文学連続講座5回、伊那谷地名講座3回行い、好評を得ている。
- ・昨年度に引き続き、郷土資料の活用を目的に「Wikipedia Town in 飯田」を行った。美術博物館の展示にあわせてテーマを「風越山」とし、「白山社（飯田市上飯田）」や「郊戸八幡宮」等の記事を編集した。参加者には高校生（2人）や2, 30代の参加者がおり、若い世代と一緒に学ぶ場となった。
- ・県歌制定50周年にあたり「信濃の国」を取り上げたふるさと講座を開催した。

3-2-2 若い世代（10代後半～30代）

- ・昨年度に続き、facebookで図書館のサービス・行事、新刊・展示紹介、日常のできごとなど、図書館を身近に感じて知ってもらうための投稿を行った。13～34歳フォロワーは前年より2%増え現在約102人（フォロワー全体の約2割）。前年より男性フォロワーが増えた。10代向けコーナー関連の記事は、非フォロワー含めて毎回200～300の閲覧が継続しており、一定の読者が定着している。
- ・今後、SNS以外に、本を使い慣れていない層へも資料の活用法等伝える機会を、学校等と連絡を取りながら検討する。

3-2-4 読書活動を支える担い手の支援・育成

- ・「声の本」制作のための録音図書製作ボランティア養成講座を開催 受講者4人
- ・朗読奉仕の会「声の輪」の皆さんによる録音図書製作
- ・郷土資料を中心に製作（完成作品の35%が郷土関連資料＋郷土雑誌『伊那』毎号）
- ・ホームページに新着録音図書の情報をほぼ毎月掲載